

とうわ  
**藤和けんこう通信**



2016年5月号 VOL.67

ご家族様にも安心して頂けるよう対応します

発行元：藤和マッサージ（訪問マッサージ・はりきゅう）  
相模原院042-855-0420 町田院042-851-7528 海老名院046-204-5482

施設入居者様がマッサージを開始する際は

## ご家族様へ、挨拶・ご説明の電話連絡

しております

施設入居者様や、自宅独居の患者様が開始する際は、

ご家族様にも安心して受けて頂けるよう、開始の際には挨拶とご説明の電話連絡しております！



特に、認知症や意思疎通が難しい患者様のご家族様にも安心して受けて頂けるよう対応します。

藤和マッサージ相模原院主催

## 『鍼パルス実技研修会』を開催しました



4/25月曜に相模原院にて実技研修会が開催されました。今回は鍼のパルスを使った実技研修を行いました。初めてパルス治療器の施術を受けた人もおり、大変有意義なものとなりました。



今回の研修で使用した鍼電極低周波治療器、通称パルスと呼ぶれています。



何事も思いやりを持って対応します！

## 同業他社が集まり、第1回技術研修会が開催されました



研修会の前に行われた会合では6月に行われる総会についての話がありました。



指定された部位を同じ条件でお互いに受け合い、感想を言い合う形となり、議論は白熱しました。



訪問マッサージ治療院6社から19名ほどの参加者が集まり、技術研修会が開催されました。皆さん大変真剣に取り組み、普段他社の施術者と交流する機会はないので、大変貴重で勉強となる時間となりました。

### ちょこっとコラム

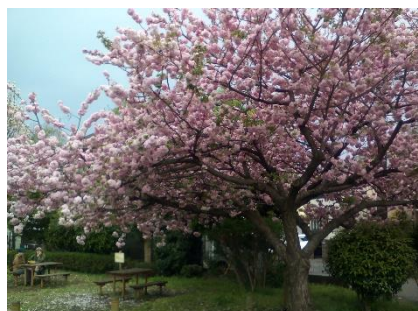
#### 『座高測定』が廃止になった理由とは…

一昨年から健康診断の中で、『座高測定』が廃止になりました。理由は、『健康管理と関係ないから』。もともと座高測定は明治時代の徴兵検査の際に行われ、足が短ければ重心が低くなり、『いい兵士になる』という理由ではじまったそうです。



訪問途中で激写！！

## 桜写真ギャラリー 2016



@大和市下鶴間



@麻溝台相模原公園



@麻溝台相模原公園



## 路上喫煙過料の3割弱が未納…時効5年、督促続ける

(2016年4月8日読売新聞)

千葉市が2011年に施行した「路上喫煙・ポイ捨て防止条例」で、本来徴収されるべき違反者に対する過料1887万円のうち、3割弱の505万円が未納となっていることが7日、市のまとめでわかった。

市廃棄物対策課によると、過料件数は11年度が2148件。ピークの12年度は2814件となり、11～15年度の総計は9435件に上った。うち支払いに応じていないのは27%の2525件。同課は督促状を年2回送付しているほか、電話で督促も行っている。

包括監査を担当した公認会計士は、差し押さえを行う必要性にも言及した。だが、1件当たり2000円以上の経費がかかる可能性もあり、同課の担当者は「差し押さえは現実的には難しい」としている。地方自治法では、過料の請求権の時効が5年と定められており、今夏にも一部が時効を迎える。

## 認知症患者の運転、どう対応…マニュアル改訂

(2016年4月15日読売新聞)

国立長寿医療研究センターは、「認知症高齢者の自動車運転を考える家族介護者のための支援マニュアル」改訂版を公開した。

アルツハイマー病や血管性認知症など、認知症のタイプ別の運転行動の特徴や、家族がどのように接したら認知症患者に運転を考え直してもらえるか、対応が難しい場合の相談窓口などについてまとめたもので、改訂は6年ぶり。レビー小体型認知症についての記載や、免許の自主返納制度の変更点などを書き加えた。作成にあたった同センターの荒井由美子・長寿政策科学研究部長は「これまでに13万部を超える利用があり、マニュアルを使ったご家族からの要望に対応した」と話している。

## 後期高齢者の保健指導、「メタボ」より「虚弱」が重要…厚労省

(2016年4月13日読売新聞)

後期高齢者の保健指導にとって最重要なのは「虚弱(フレイル)」対策とする提言を、厚生労働省研究班(班長＝鈴木隆雄・国立長寿医療研究センター理事長特任補佐)が12日、発表した。

同省は、有識者検討会で具体策を練り、2018年度から全国展開を目指す。

現役世代の健康対策としては、「メタボリックシンドローム」(内臓脂肪症候群)など肥満対策が重視されているが、研究班は、75歳以上の後期高齢者に着目。国内の高齢医学分野の研究を複数分析したところ、肥満よりも、栄養不足に伴って体力、認知機能などが低下する「虚弱」の深刻さが浮かび上がった。介護が必要になる要因を見ると、虚弱関連が5割超で脳卒中など生活習慣病関連の3割より多かった。75歳以上になると、食べる力が衰え、体力や認知機能が低下し、行動範囲も狭まりがちなこと指摘。提言では、後期高齢者向けの保健指導として、虚弱状態のチェックリストの作成や、栄養士などによる訪問指導などの対策を挙げた。

発行元

無料体験マッサージ、いつでもお気軽にどうぞ  
【医療保険適応 訪問マッサージ・はりきゅう】